

令和4年度 加古川市ケータイ・スマホアンケート調査結果について

I 調査概要

(1) 調査目的

「加古川市ケータイ・スマホ等の利用に係るアンケート調査」を実施し、児童生徒と保護者のインターネット環境における意識を調査するとともに、トラブル未然防止のための啓発活動の一端を担う。

(2) 調査内容 ※本調査は隔年で実施

- ①加古川市ケータイ・スマホ等の利用に係るアンケート調査（小・中学生用）
- ②加古川市ケータイ・スマホ等の利用に係るアンケート調査（保護者用）

(3) 調査対象

小学校5年生～中学校3年生（児童生徒・保護者）

(4) 調査期間

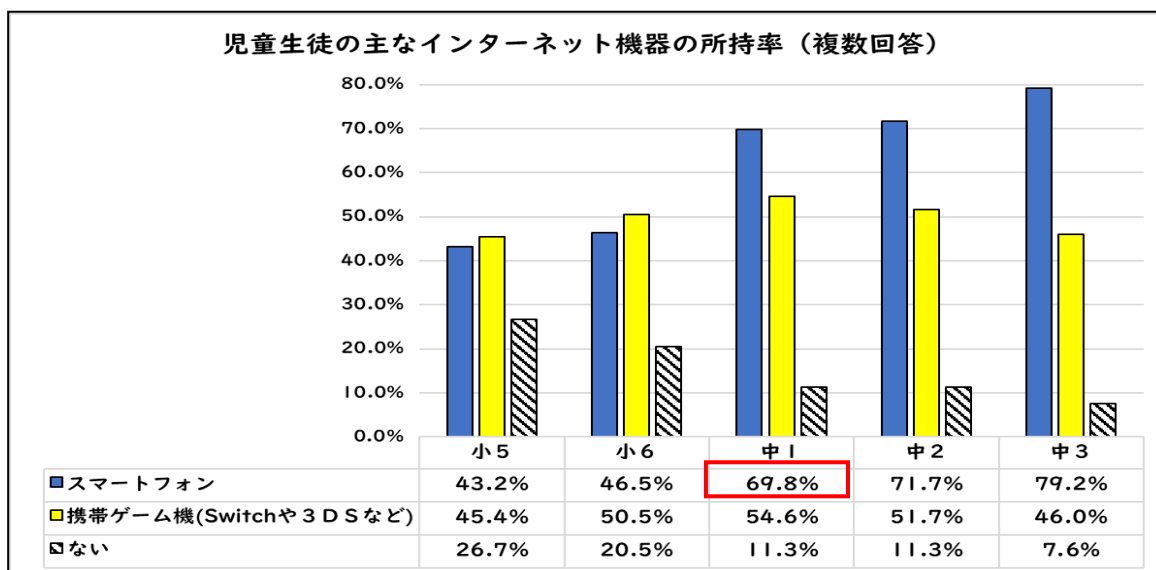
令和4年4月から令和4年5月

(5) 回答数及び回答率

	回答数			回答率			
	男	女	計	男	女	計	保護者
小学校5年生	1,141人	1,170人	2,311人	90.2%	91.3%	90.7%	74.2%
小学校6年生	1,153人	1,158人	2,311人	92.2%	91.9%	92.0%	69.9%
中学校1年生	1,100人	1,165人	2,265人	90.5%	90.7%	90.6%	67.2%
中学校2年生	1,124人	1,108人	2,232人	88.2%	89.1%	88.6%	66.7%
中学校3年生	1,168人	1,133人	2,301人	90.7%	92.2%	91.4%	66.1%

2 調査結果

(1) 児童生徒の主なインターネット機器の所持率について（複数回答）



※1 令和2年度 スマートフォン所持率（加古川市ケータイ・スマホアンケート調査）

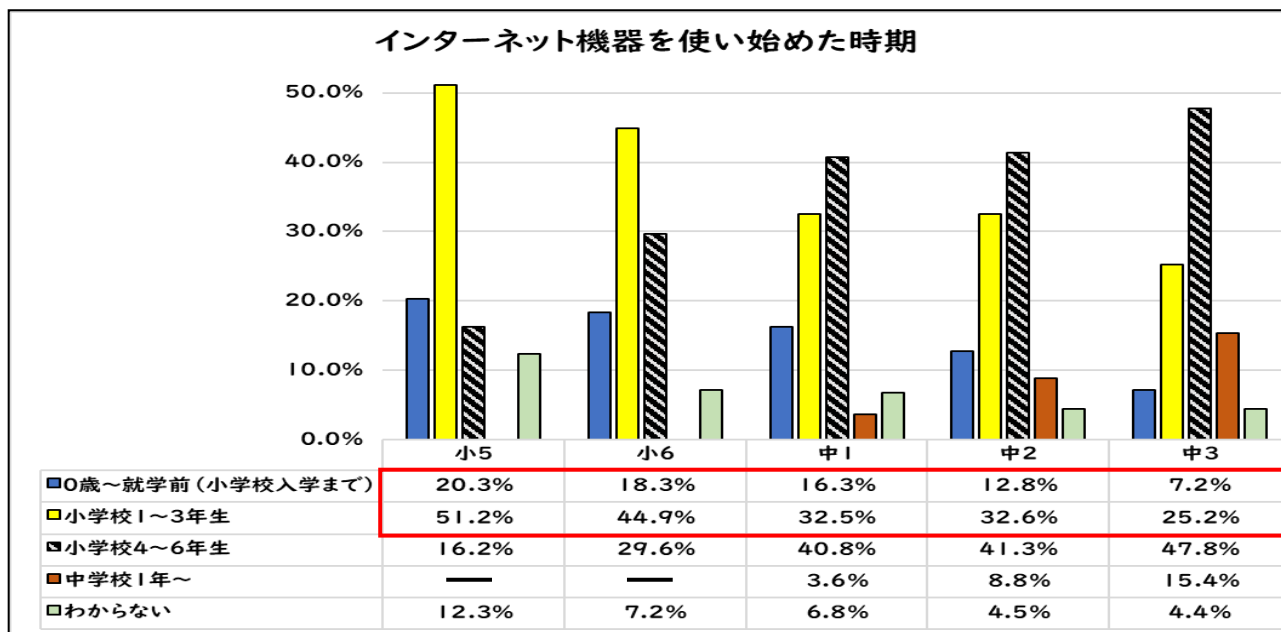
小5：42.0% 小6：46.4% 中1：58.0% 中2：70.8% 中3：75.5%

※2 令和3年度 スマートフォン所持率（「ケータイ・スマホアンケート」兵庫県青少年本部）

小4～小6：37.5% 中1～中3：73.0%

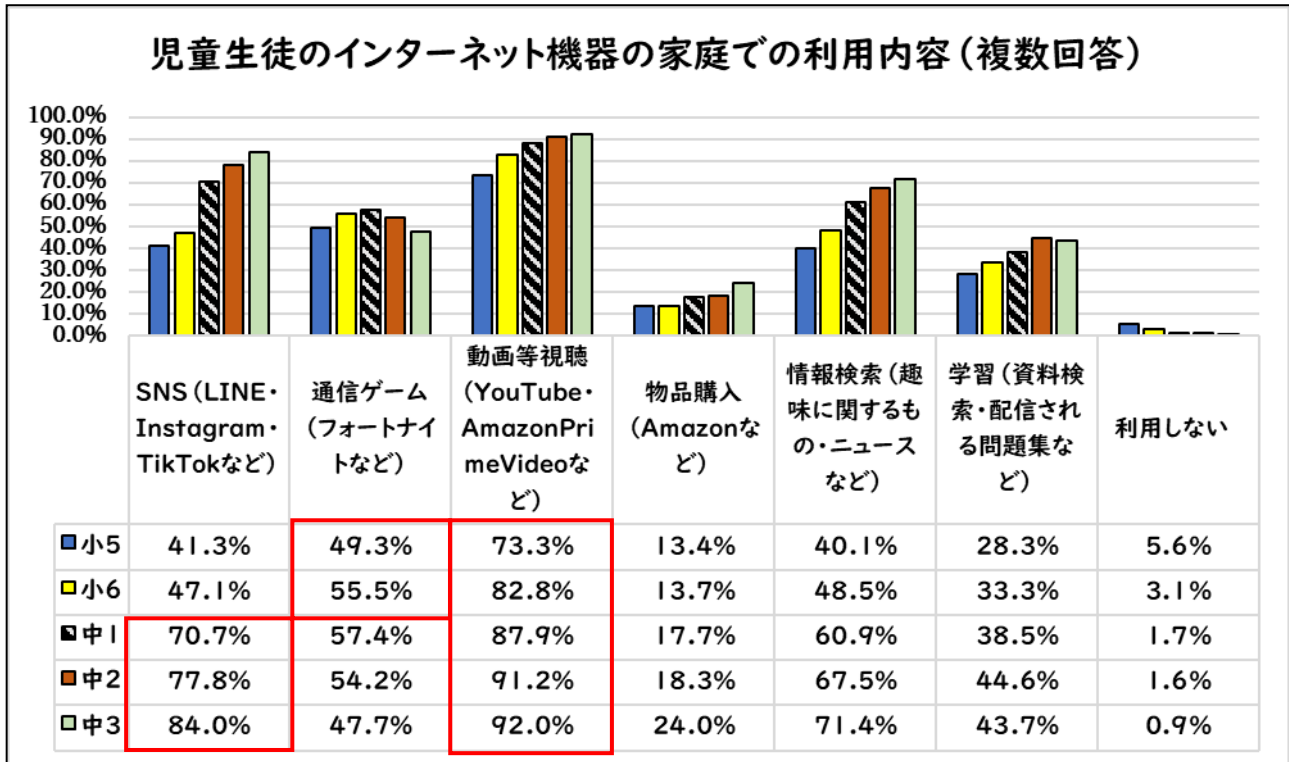
- ・児童生徒のスマートフォンの所持率を令和2年度と比較すると、中学校1年生が10%以上高くなっている。
- ・スマートフォンの所持率については、中学校1年生から大きく増加している。
- ・児童生徒が所持しているインターネット機器は、スマートフォンと携帯ゲーム機が主である。
- ・携帯ゲーム機の所持率は、小学生の間はスマートフォンの所持率より高くなっている。
- ・個人のインターネット機器所持がない割合は学年が上がるごとに低くなる。

(2) インターネット機器を使い始めた時期



- ・どの学年も小学校入学までの間に何らかのインターネット機器を使い始めている。
- ・0歳～就学前、小学校1～3年生の割合は、学年が小さくなるほど高くなっており、インターネット機器に初めてふれる年齢は、低年齢化している。

(3) 児童生徒のインターネット機器の家庭での利用内容について（複数回答）

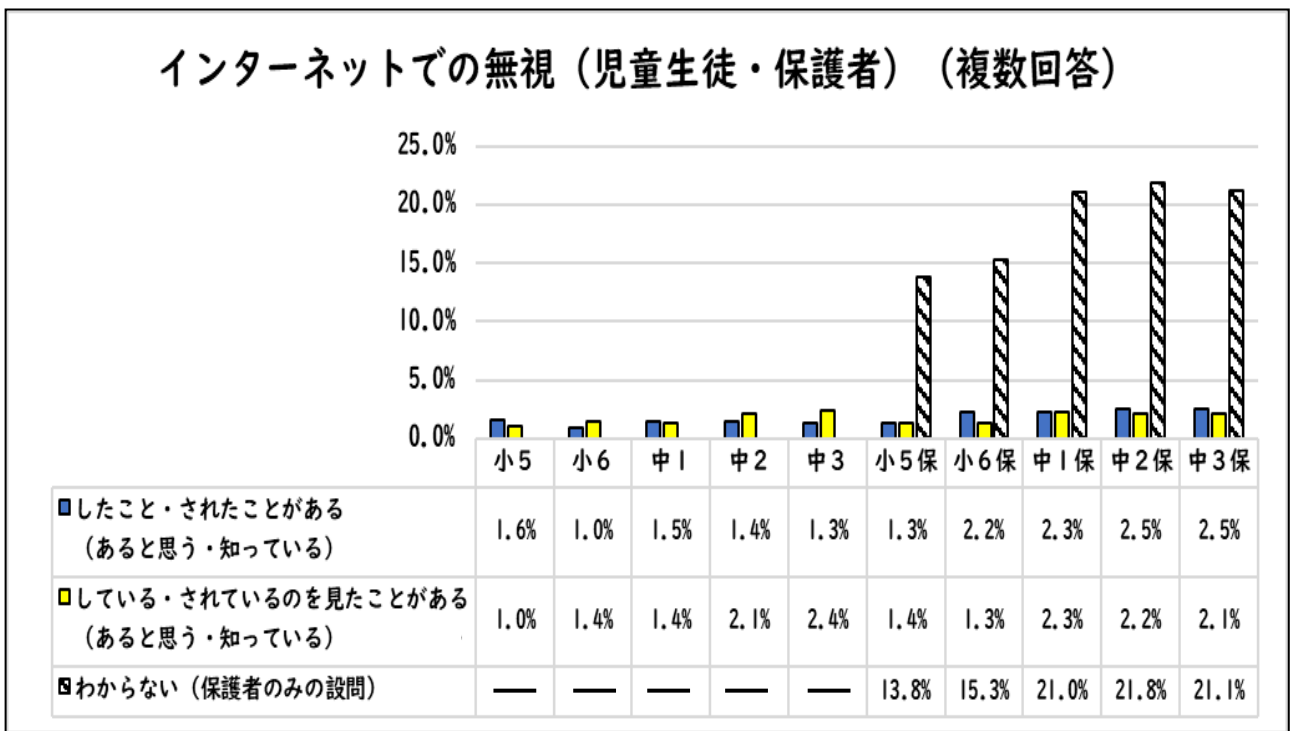
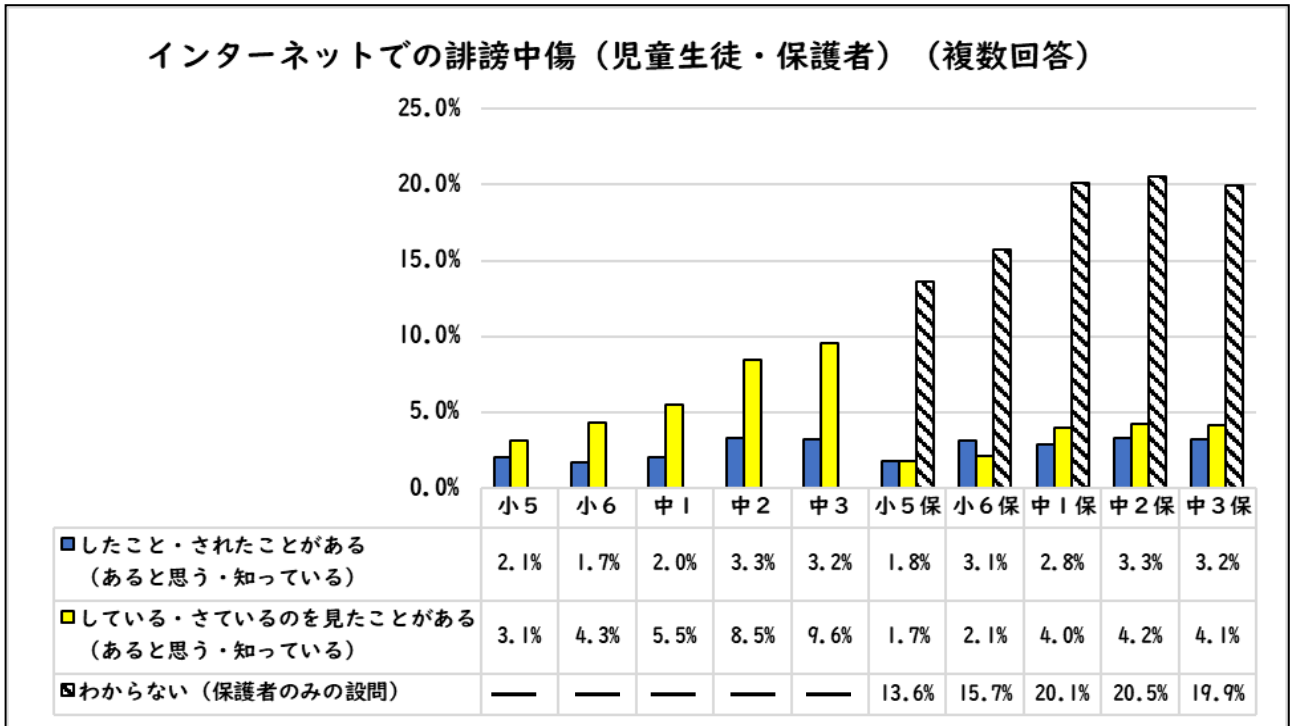


- ・どの学年も動画等、視聴の割合が一番高くなっている。
- ・SNSの利用割合は、調査結果（1）のインターネット機器の個人所持率に連動しており、中学生から割合が高くなっている。
- ・通信ゲームの割合は、各学年で大きな差はないが、小学生では、動画等視聴の次に高くなっている。
- ・児童生徒はインターネット機器を学習にも利用しており、学年が上がるほど利用率が高くなる傾向となっている。
- ・男子は通信ゲームの利用率が高く、女子はSNSの利用率が高くなっている。
- ・中学生男子は、SNSと通信ゲーム共に利用率が高くなっている。

※男女別インターネット機器の利用内容抜粋

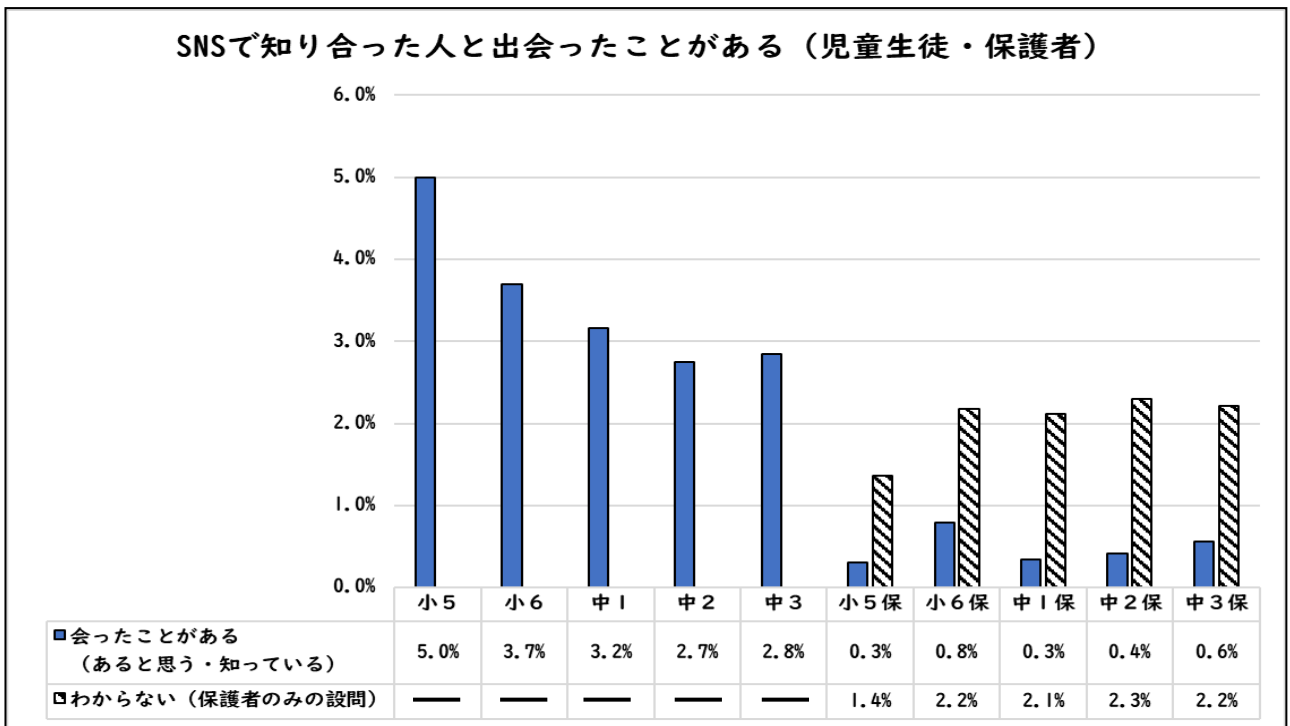
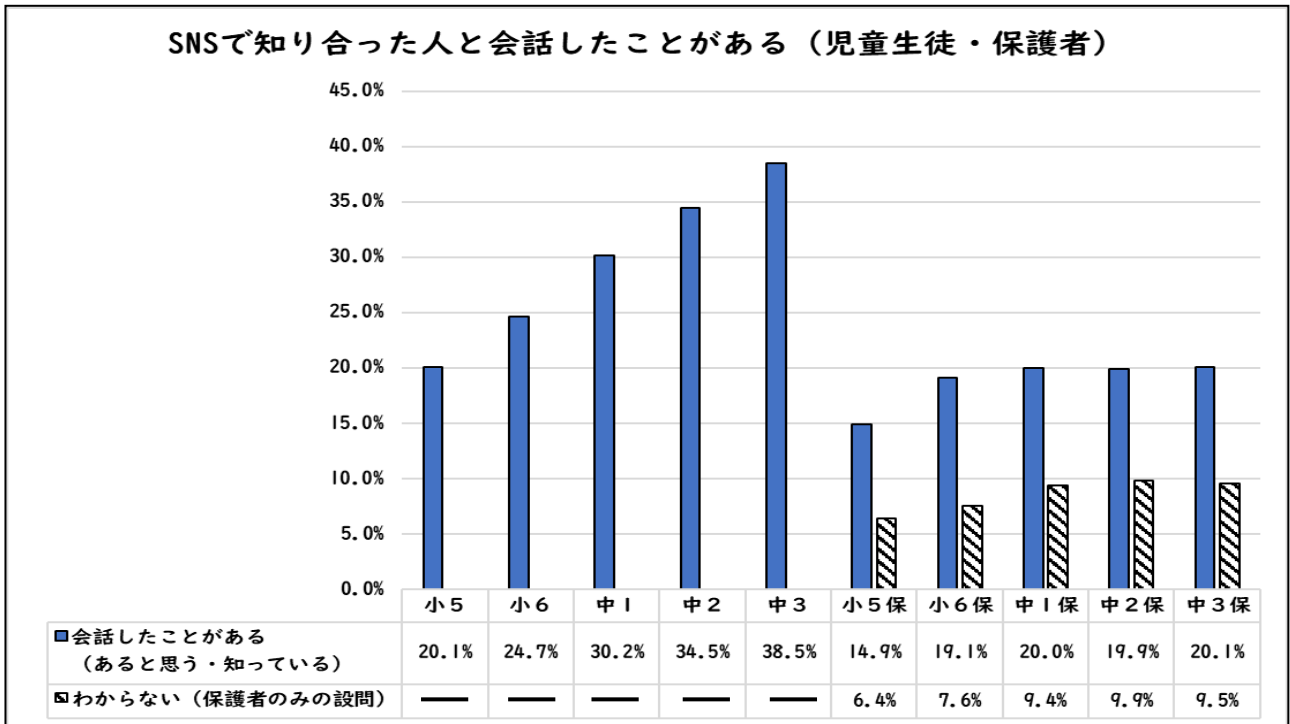
	小5男	小6男	中1男	中2男	中3男	小5女	小6女	中1女	中2女	中3女
SNS	33.0%	36.8%	61.9%	70.3%	79.1%	49.5%	57.5%	79.0%	85.5%	88.9%
通信ゲーム	65.8%	71.8%	76.1%	71.2%	68.4%	33.3%	39.4%	39.9%	37.1%	26.9%

(4) インターネット環境での誹謗中傷・無視について（複数回答）



- ・インターネット上での誹謗中傷や無視は少なからず見られる。
- ・「したこと・されたことがある」の項目では児童生徒と保護者の認知に大きなずれはないことがわかる。
- ・「わからない」と回答している保護者も一定数おり、児童生徒の実態を把握できていない可能性がある。

(5) SNSでの会話や出会いについて



- ・ SNS上での会話は小学校5年生から経験している児童が20%以上であり、中学校3年生になると、その割合が約40%となっている。
- ・ 「SNSで知り合った人と出会ったことがある」と答えた児童生徒はどの学年も見られ、児童生徒と保護者の認知率を比べると、小学校5年生で数値のずれは最大となっている。
- ・ 「SNSで知り合った人と出会ったことがある」では小学生の方が多くなっている。児童生徒が保護者に黙って知らない人と出会っている可能性がある。

(6) 保護者に内緒でしたこと・保護者が後で知ったこと（複数回答）

	保護者に内緒でしたこと					保護者が後で知ったこと				
	小5	小6	中1	中2	中3	小5保	小6保	中1保	中2保	中3保
課金した	2.3%	2.0%	3.1%	2.9%	4.3%	2.4%	3.1%	4.4%	5.1%	4.6%
インターネットで知り合った人と会った	0.9%	0.5%	0.4%	0.7%	0.6%	0.0%	0.6%	0.3%	0.3%	0.6%
決められた時間以上に利用した	16.4%	20.8%	20.8%	21.1%	21.5%	41.8%	43.4%	41.5%	41.9%	41.2%
勝手にアプリを追加した	9.4%	10.2%	8.8%	13.8%	14.5%	13.1%	12.2%	13.0%	13.1%	13.3%
フィルタリングや利用制限、位置情報を勝手に解除した	1.2%	1.6%	2.3%	2.6%	3.7%	3.5%	3.2%	3.0%	2.9%	3.0%
インターネット上で友達と言い争いになった	1.8%	3.1%	3.4%	1.5%	2.0%	2.8%	4.5%	2.7%	2.6%	2.8%
閲覧しないと決めたサイトなどを見た	0.8%	1.1%	1.1%	0.6%	0.9%	3.3%	4.1%	4.1%	4.1%	4.2%
ない	71.3%	67.4%	68.7%	67.3%	65.2%	51.0%	46.9%	50.3%	49.4%	49.7%

- ・「決められた時間以上に利用した」と答えた児童生徒が特に多く、保護者の事後認知も同じ項目の率が高くなっていることから、保護者の目が行き届かない場所や時間帯に利用している可能性がある。特に深夜の長時間利用は「昼夜逆転」につながり、生活のリズムの乱れによる不登校の原因となっている。
- ・次いで、「勝手にアプリを追加した」と答える児童生徒は多くなっている。児童生徒が、勝手に「フィルタリング設定を解除する」等のことが起こっており、保護者も把握しきれない現状もある。

(7) 学習したいテーマについて（複数回答）

<児童生徒>

	小5	小6	中1	中2	中3
性的被害に関する問題（出会い系サイト、SNSなど）	32.9%	36.2%	37.7%	28.3%	26.0%
ネット依存について（利用の長時間化など）	35.0%	48.9%	59.6%	57.1%	60.7%
プライバシー保護やセキュリティに関する問題	28.5%	34.1%	44.0%	47.5%	46.3%
フィルタリングの必要性や有効性について	20.6%	23.3%	28.7%	30.6%	33.4%
特に知りたいことはない	38.2%	25.2%	17.4%	20.0%	13.1%

- ・どの学年も「ネット依存について」の割合が高くなっている。
- ・「特に知りたいことはない」と答えている割合は小学校5年生が一番高くなっている。

<保護者>

	小5男保	小5女保	小6男保	小6女保	中1男保	中1女保	中2男保	中2女保	中3男保	中3女保
性的被害に関する問題（出会い系サイト、SNSなど）	43.8%	63.1%	47.2%	62.1%	49.2%	66.6%	42.9%	61.9%	46.8%	60.4%
ネット依存について（利用の長時間化など）	73.5%	73.5%	79.9%	71.7%	76.3%	73.9%	77.0%	75.5%	74.4%	72.8%
プライバシー保護やセキュリティに関する問題	66.6%	68.5%	69.5%	67.1%	65.0%	69.9%	65.9%	70.5%	69.8%	68.0%
フィルタリングの必要性や有効性について	38.6%	39.4%	41.2%	39.4%	36.7%	41.9%	36.2%	40.3%	42.7%	37.9%
ペアレンタルコントロールの必要性や有効性について	30.7%	31.7%	31.9%	32.6%	31.4%	34.3%	27.3%	33.1%	30.7%	25.9%
特に知りたいことはない	8.9%	9.4%	8.0%	6.5%	6.0%	8.3%	6.4%	5.9%	7.5%	8.6%

- ・保護者も「ネット依存について」の割合が高くなっている。
- ・女子児童生徒の保護者は、「性的被害に関する問題」の割合が、男子児童生徒の保護者より高くなっている。

※男女別学習したいテーマ（保護者）抜粋

	小5保		小6保		中1保		中2保		中3保	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
性的被害に関する問題（出会い系サイト、SNSなど）	43.8%	63.1%	47.2%	62.1%	49.2%	66.6%	42.9%	61.9%	46.8%	60.4%

3 まとめ

この度の調査で、児童生徒のインターネット機器所持率は増加傾向であることに加え、所持のタイミングが「低年齢化」しており、今後ますます進んでいくことが予想される。保護者に内緒で長時間インターネット機器を使用したり、知らない人と出会ったりと、児童生徒の現実の生活に大きな影響を及ぼし、ネット・ゲーム依存、金銭トラブル・性被害等の危険性は今後さらに増加することが考えられる。

児童生徒と保護者の認識にずれがある部分も多く、児童生徒の実態を把握できていない保護者がいる現状も見えてきているなど、ペアレンタルコントロール※1の重要性がますます高くなっている。

「(3) 児童生徒のインターネット機器の家庭での利用内容」では、中学生男子は通信ゲームと SNS 利用率が高いことが分かった。この要因の一つとして、SNS を通じて会話や指示をしながら併用してゲームをしていることが考えられる。また、男女別に見ると、男子は通信ゲーム利用率が高く、ゲーム依存から生活リズムを崩し、昼夜逆転や不登校につながる可能性がある。女子は SNS 利用率が高く、SNS トラブルや SNS いじめを経験する危険性が高いと思われる。少年愛護センターで相談を受ける児童生徒の中にも、上記事案が見られる。

児童生徒が学習したいと考えているテーマは「ネット依存について」が一番多く、インターネット機器利用の開始時期は低年齢化しているにも関わらず、特に知りたいことはないと答えている割合は中学生より小学生の方が高い状況である。これは、身近なところにインターネット機器があり、幼いころから危険性などに対し無知のままインターネット機器を利用している可能性が考えられる。また、幼少期や思春期にネット依存になることは、思考や記憶、コミュニケーションを司る前頭葉の前頭前野の発達に影響があるとの研究結果も出ており、そういった知識や情報を今後、情報モラル教室等を通じて広めていく必要がある。※2

インターネット機器の利用時期の低年齢化に伴い、情報モラル教育も「低学年から発達段階に応じて」実施することも大切であり、同様に保護者に対しても周知し、児童生徒がインターネット機器とうまく付き合える方法を学校、家庭と連携して考えていくことが大切であると考えられる。

※1 ペアレンタルコントロール

子どもによるパソコンや携帯電話・スマートフォンやゲーム機などの情報通信機器の利用を親が監視して制限する取組

※2 参考資料

NHK 健康 CH (2022) インターネットの脳への影響と「適切なつきあい方」